統計を 超えねばならぬ 初春(はる)来る

昨年11月、オケラは満七十七歳になりました。　エ、喜寿？俺、そんな爺さんになったの？　喜寿と言われるからには、喜ばなければならないのでしょうが、日々の積み重ねとは言え、こうしてなってみると、それ程の重みも感じられず、喜ぶと言うより、先行きを考えて困惑してしまいます。　かつては、始皇帝を始め、万人の夢だった長生きも、今では日常に訪れる紛れもない現実。日本人の平均寿命は、今や男が80歳、女が87歳で、平均余命は、男が喜寿になっても更に10年、73歳の女では17年あるそうです。 一方、介護なしで、日々差し障りのない暮しが出来る健康寿命は、平均寿命より男が平均9年、女が12年半短いとのこと。 即ち、男女ともこの差の期間だけ、不自由な暮しをしながら生きて行く訳です。 勿論統計上の話ですから、実際にはそれぞれの個人によって異なるのですが、この統計をそのまま私達の将来に当てはめてみますと、これから1年後にオケラが要介護、その3年半後にメケラの身体が不自由になって、5年半二人で寝付いた後にオケラが、その7年後にメケラが90歳で死亡。その間に、私達の金婚記念旅行や、現場で観る心算の東京オリンピックなどがある筈。 おいおい、統計通りの暮しでは、二人で動ける時間が足りないぞ。　と言うことで、今後は統計無視の健康生活をして行く所存。 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成二十八年元旦

オケラ・メケラ